

2025年度 中間期決算 業績予想



2025年10月31日
日本軽金属ホールディングス株式会社

2025年度 中間期決算、通期業績予想 サマリー

中間期決算 営業利益116億円(前年同期比+37%)経常利益97億円(同+34%)
通期予想経常利益 210億円(25/5/15公表値据え置き)

1. 中間期決算

- 販売面：半導体製造装置向け板、押出の需要回復先送り、二次合金の国内自動車向け低調も、化成品、パウダー・ペーストの放熱向け好調、自動車部品回復、トラック架装堅調で売上高増
- 採算面：加工製品、関連事業が大きく改善、箔、粉末製品も前年同期上回る利益に。アルミ地金市況反映によるコスト上昇も、販価改定効果で、経常利益は期首予想比でも約20%増益

2. 通期業績予想

- 業績進捗は基本的に順調も、現時点では期首の通期業績予想値を据え置き
- 放熱向け好調・自動車部品回復・トラック架装関連堅調は継続、LIB関連はケース材向けが好調も外装用箔は市場動向注視継続、半導体製造装置向けは26年度に入っでの回復想定に
- 米国関税政策と各国経済・市場への影響などの不透明感も考慮

米国・輸入関税追加措置 当社グループへの影響

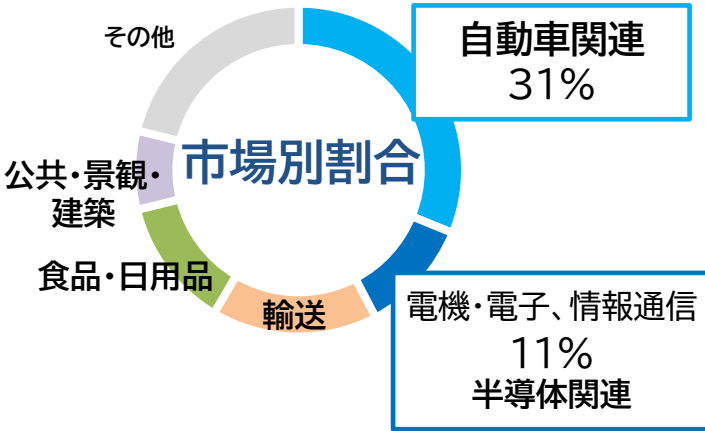
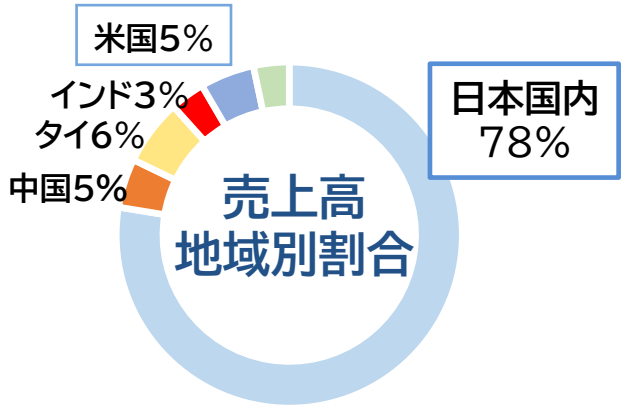
上期では殆ど影響見られず、通期業績予想も同様で見込む(期首予想と見方変えず)

直接影響 僅少(海外「地産地消」が過半、対米直接輸出 連結売上高の0.5%程度)

間接影響 引き続き動向を注視(自動車・半導体・鉄鋼)

影響想定(2025/5/15開示内容再掲、現時点でも変化無し)

セグメント	事業グループ	直接影響 (対米直接輸出売上高規模)	間接影響 (お客様影響)
● アルミナ・ 化成品、地金	化成品	僅少(炭素製品)	注視(鉄鋼・自動車)
	メタル	無し	注視(自動車)
● 板、押出製品	軽圧	僅少(押出)	注視(半導体・自動車)
	輸送機器	無し	無し
	自動車部品	無し	注視(自動車)
	エンジニアリング	無し	注視(半導体)
● 加工製品、 関連事業	インフラ	無し	無し
	箔	僅少(パウダー・ペースト)	注視(自動車)



販売価格改定実施状況

化成品、トラック架装(輸送機器事業グループ・日本フルハーフ)はじめ上期は順調に進捗、下期も同基調継続

セグメント	事業グループ／部門	価格改定対象	開始時期	改定内容
● アルミナ ・化成品、地金	化成品事業グループ 日軽金・化成品	・ 水酸化アルミニウム、アルミナ	2024年6月 2025年1月	－ 現行価格の10%以上値上げ － 水酸化アルミニウム20円/kg以上、アルミナ30円/kg以上値上げ
	軽圧事業グループ 日軽金・板	・ 全てのアルミニウム板製品	2023年1月 2024年2月 2025年6月	－ 原燃料サーチャージ導入 － 加工賃(ロールマージン価格):20%程度値上げ － 加工賃(ロールマージン価格):20%以上値上げ
	軽圧事業グループ 日軽金アクト	・ アルミニウム押出製品全般	2025年2月	－ 加工賃(ロールマージン価格):20%以上値上げ
● 加工製品、 関連事業	輸送機器事業グループ 日本フルハーフ	・ バンボデー、トレーラ等を含む全商品	2023年3月	－ 現行価格の10～15%値上げ
		・ バンボデー、トレーラ等 全製品、部品全般	2024年5月 (部品8月)	－ 製品:20%値上げ － 部品:15～30%値上げ
● 箔、粉末製品	箔事業グループ 東洋アルミニウム	・ 樹脂・紙原料の家庭用商品	2023年7月	－ 20%以上
		・ 箔・加工品、パウダー・ペースト全品種	2025年4月	－ 労務費上昇分+個別対応で値上げ

目次

1. 2025年度 中間期決算
2. 2025年度 通期業績予想

2025年度 中間期決算

中間期決算 – 前年同期比

増収・増益：化成品、パウダー・ペーストの放熱向け好調、自動車部品が回復、トラック架装関連は堅調で売上高増

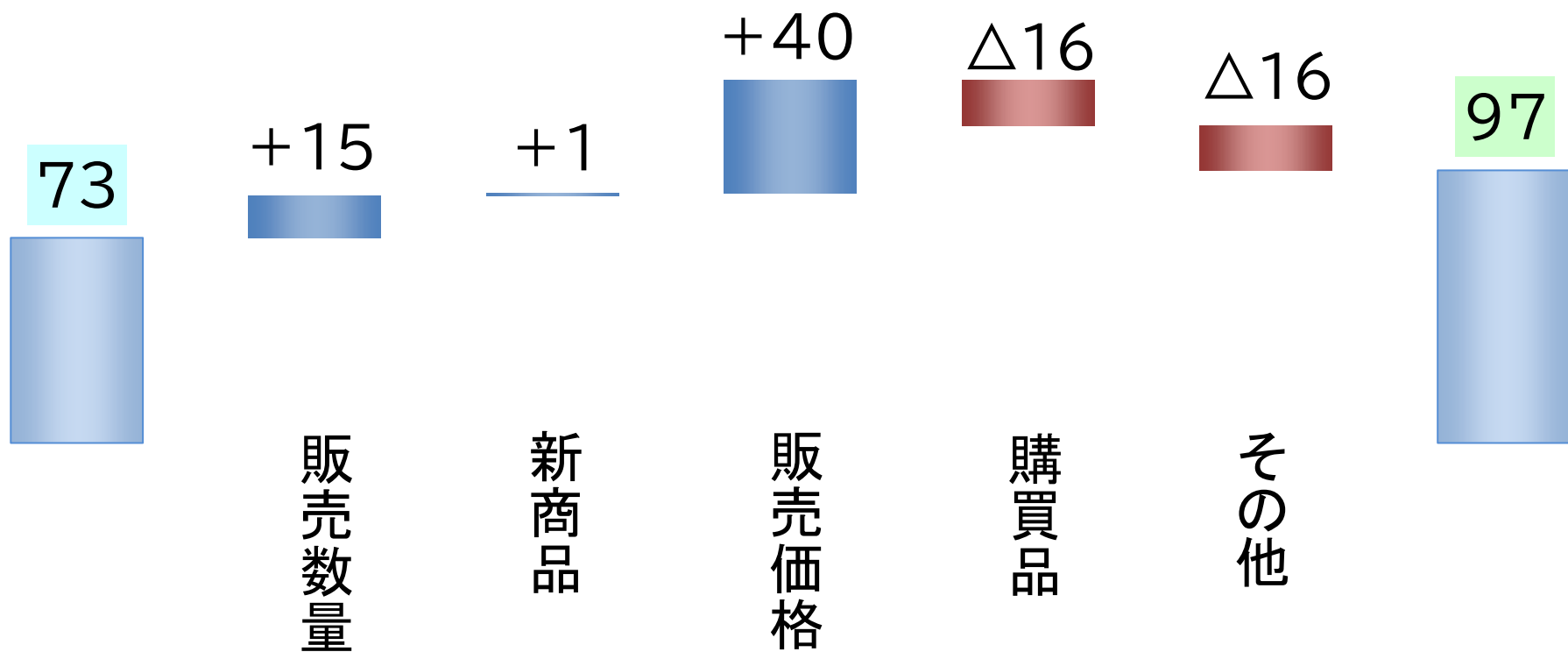
(億円)

	24年度中間期 実績	25年度中間期 期首予想	25年度中間期 実績	前年同期比 増減
売上高	2,611	2,800	2,787	+176 (+6.7%)
営業利益	85	90	116	+31 (+36.5%)
経常利益	73	80	97	+24 (+33.8%)
親会社株主に帰属する 中間純利益	48	50	55	+7 (+13.8%)

経常利益変化要因 – 前年同期比

増収・増益：放熱関連(化成品、パウダー・ペースト)好調や自動車部品回復などによる増販、化成品やトラック架装などでの販価改定効果が利益を押し上げ

2024/中間期実績 **+24億円** 2025/中間期実績



2025年度 中間期決算

セグメント情報 – 前年同期比

板、押出製品：半導体製造装置向けの回復遅れで販売未だ停滞
加工関連、関連事業：自動車部品回復、トラック架装堅調継続、断熱パネルも堅調推移
(億円)

	売上高				営業利益			
	24年度 中間期 実績	25年度 中間期 期首予想	25年度 中間期 実績	増減	24年度 中間期 実績	25年度 中間期 期首予想	25年度 中間期 実績	増減
アルミ・化成品、 地金	809	890	878	+69 (+8.6%)	68	60	68	+0 (+0.3%)
板、押出製品	493	550	539	+46 (+9.3%)	20	15	13	△7 (△33.3%)
加工製品、 関連事業	779	820	814	+35 (+4.4%)	△18	0	14	+32 (—)
箔、粉末製品	530	540	556	+26 (+4.8%)	32	35	37	+5 (+15.4%)
管理・共通	—	—	—	—	△17	△20	△16	+1
合 計	2,611	2,800	2,787	+176 (+6.7%)	85	90	116	+31 (+36.5%)

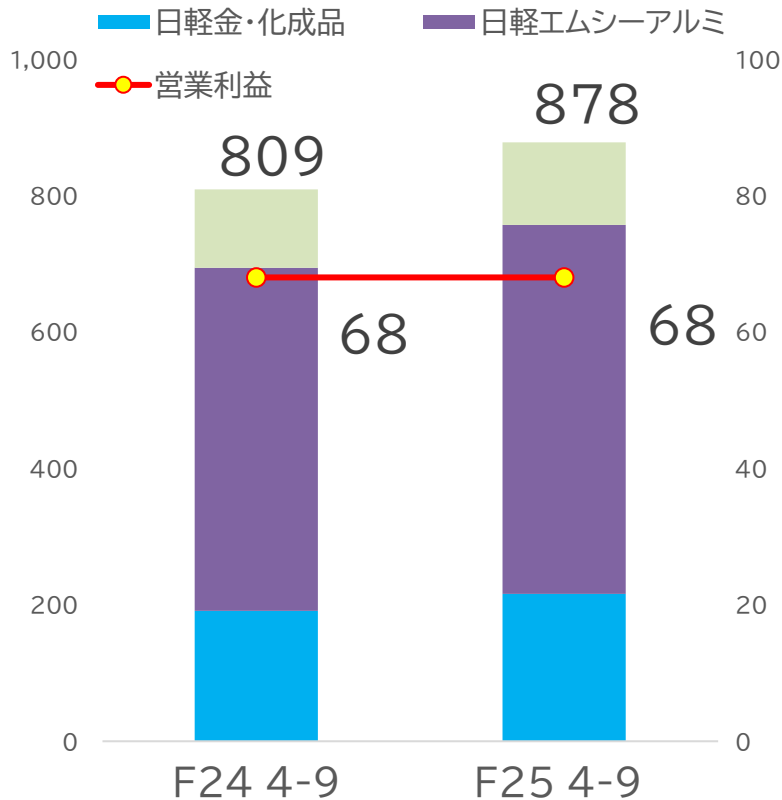
2025年度 中間期決算

アルミナ・化成品、地金

化成品：放熱難燃フィラー向け販売好調と原料コスト上昇に対する販価改定効果で増益
 メタル：二次合金増益(米・販売環境好調、印・本格稼働寄与)も、アルミ市況変動影響で減益

売上高(億円)

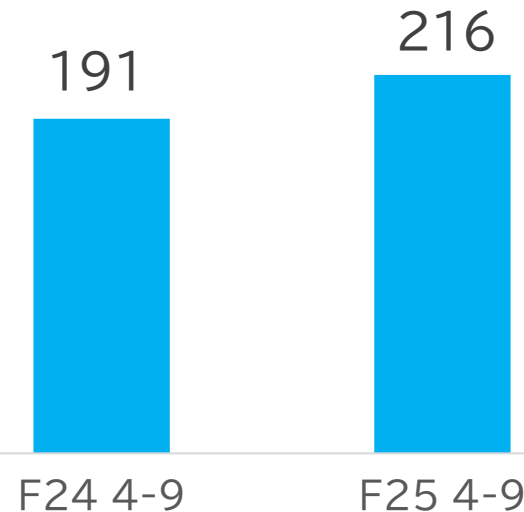
営業利益(億円)



化成品事業グループ
 化成品部門(日軽金・化成品)

- 水酸化アルミニウム・アルミナは放熱難燃フィラー向けが好調に推移、化学品は無機塩化物が鈍化基調
- 原材料価格高騰影響があったものの、販売価格改定の効果が寄与

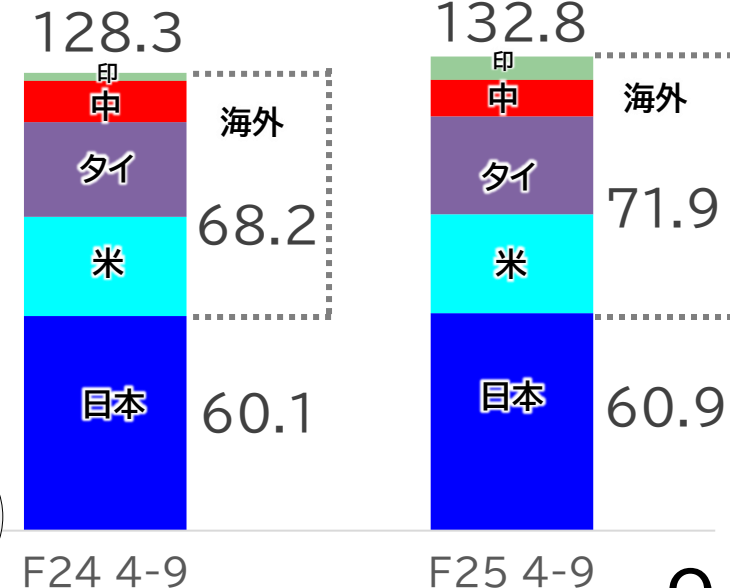
売上高
 億円



メタル事業グループ
 二次合金部門(日軽エムシーアルミ)

- 日本：国内自動車生産低調影響継続
- 海外：米国内アルミ地金価格上昇影響で米国好調、タイ当社販売は前年同期比増、中国低調継続、インド新工場本格稼働で増販に寄与

販売量
 千t

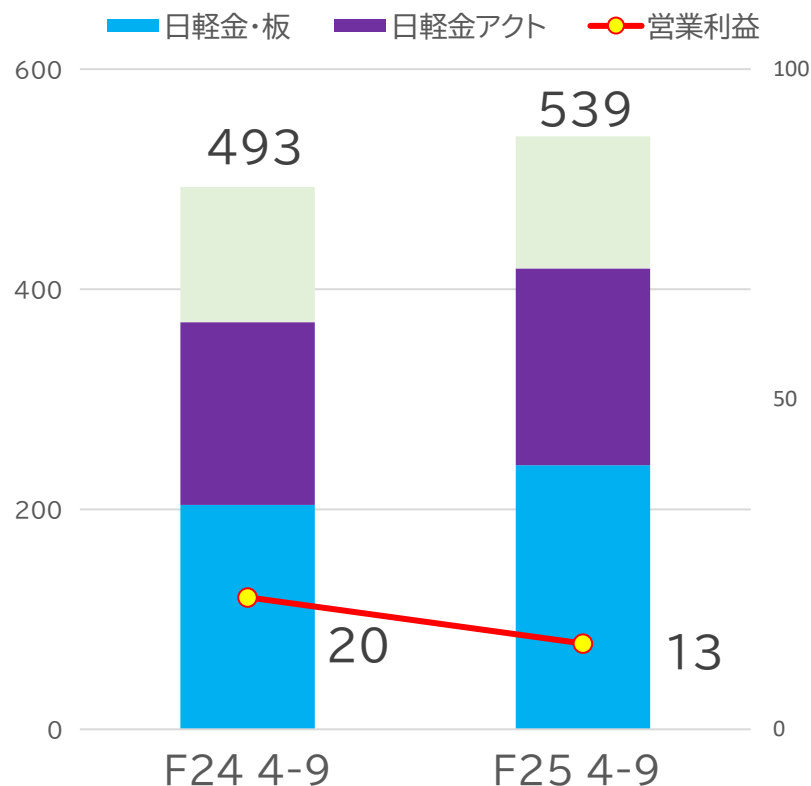


2025年度 中間期決算 板、押出製品

トラック架装向け押出材は堅調維持、LIBケース向け板材は好調も、半導体製造装置向けが板・押出ともに停滞、アルミ市況の変動を反映したコスト上昇の影響もあり減益

売上高(億円)

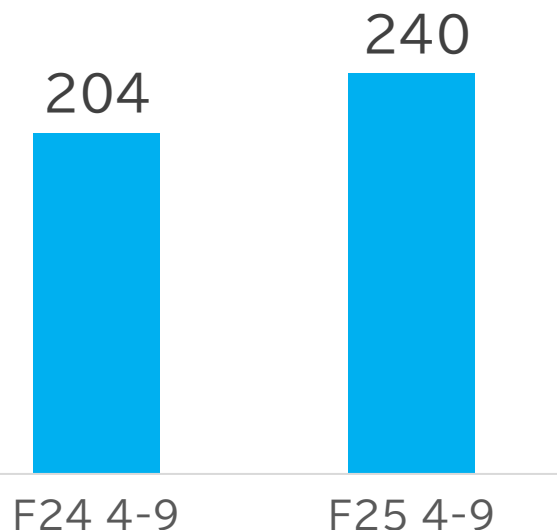
営業利益(億円)



軽圧事業グループ
板部門(日軽金・板)

- 半導体製造装置の需要先送りで厚板回復遅れも、リチウムイオン電池ケース向け板材が好調でアルミ市況反映の販売価格影響もあり増収
- 加工賃改定効果があったものの、アルミ地金価格変動反映によるコスト上昇大きく、減益

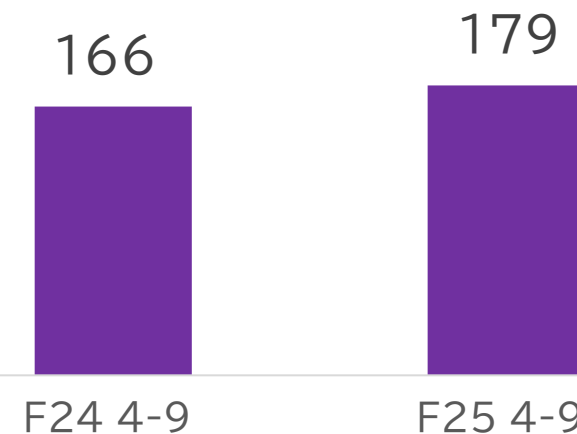
売上高
億円



軽圧事業グループ
押出部門(日軽金アクト)

- 半導体製造装置向けが停滞も、トラック架装向けは堅調を維持し、アルミ市況反映の販売価格が前年同期上回ったこともあり、売上高増
- 加工値改定効果も、アルミ地金価格変動によるコスト影響が大きく、前年同期比減益

売上高
億円



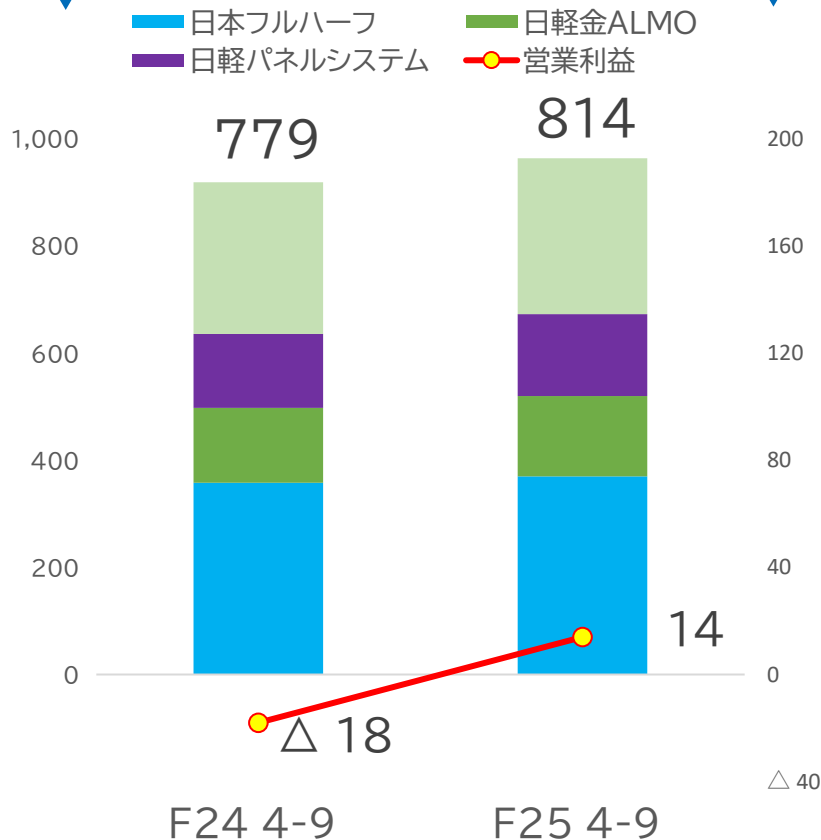
2025年度 中間期決算

加工製品、関連事業

輸送機器(トラック架装)は販価改定効果で、自動車部品は国内回復と米国改善で、エンジニアリングのパネルシステムは冷凍・冷蔵、クリーンルームとも堅調で、セグメント利益大きく改善

売上高(億円)

営業利益(億円)



輸送機器事業グループ(日本フルハーフ)

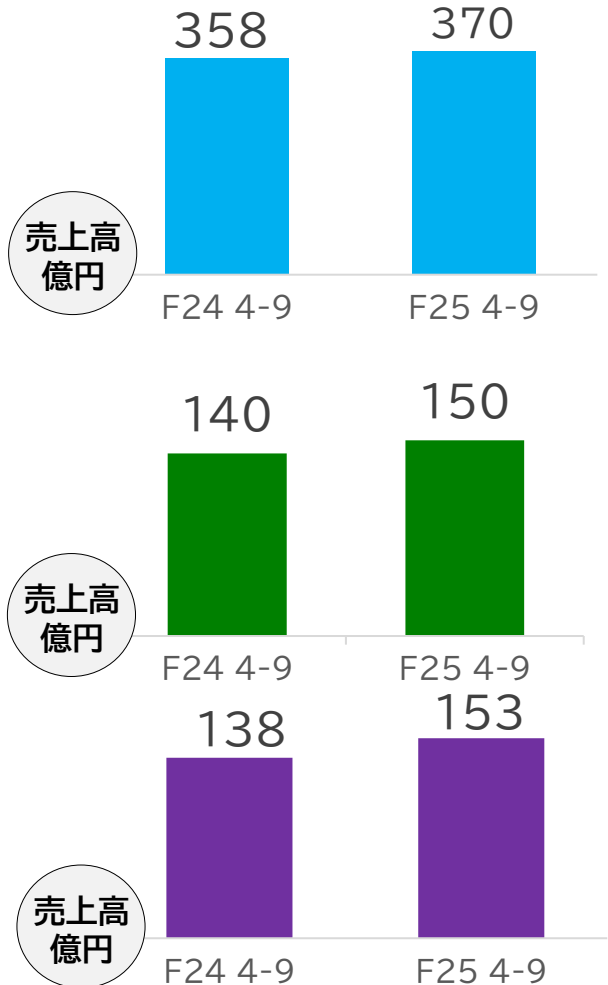
- トラック架装の需要環境は堅調に推移
- 販価改定効果と材料価格軟化により、利益は前年同期より大きく改善

自動車部品事業グループ(日軽金ALMO)

- 日本：自動車減産から一部回復、新規案件の上市と品種構成改善などにより、損益大きく改善
- 海外 中国低迷継続、米国は生産性良化・一部増販で改善

エンジニアリング事業グループ パネルシステム部門(日軽パネルシステム)

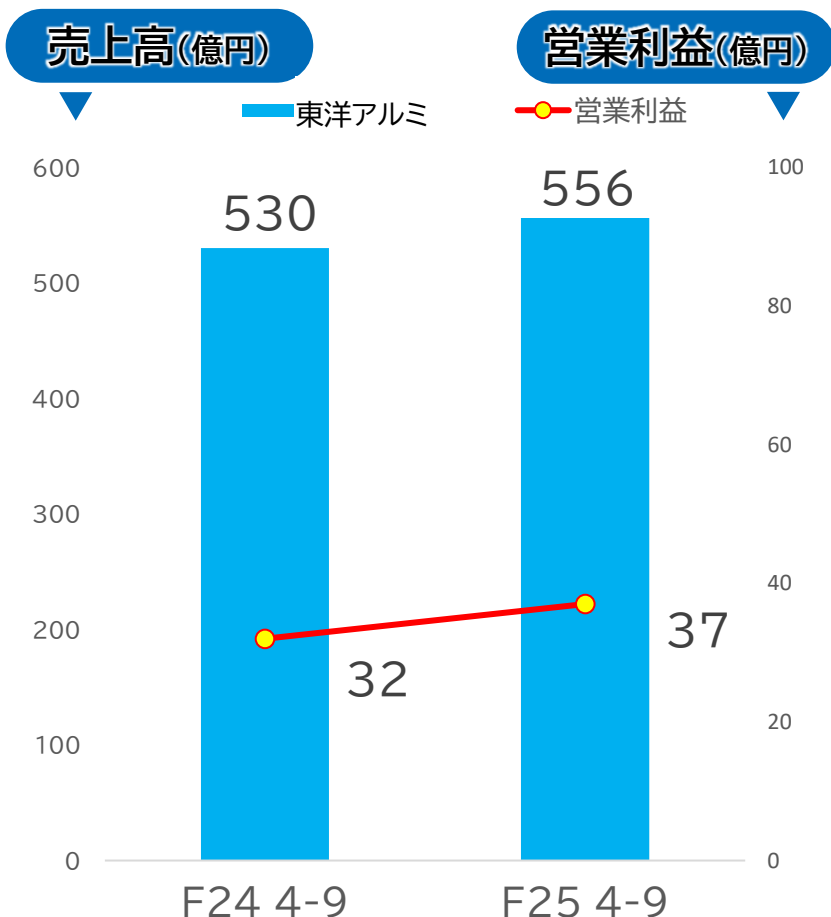
- 冷凍・冷蔵分野：建設費高騰・人手不足による工期遅れ影響有るも、拠点増設・建替需要と改装ニーズで増販
- クリーンルーム分野：半導体関連向けは一部で落ち着きも新工場建設や既存設備の需要継続で前年同期比増販



2025年度 中間期決算

箔、粉末製品

箔は医薬包材向けが踊り場もLIB外装用箔は調整局面にあった前年同期より増販で、
パウダー・ペーストは放熱用途の需要伸長・増加により、前年同期比増益



箔事業グループ(東洋アルミニウム) 箔部門

- 医薬包材向け加工箔は需要調整局面もあり前年同期を下回る販売も、リチウムイオン電池外装用箔は車載用の需要増による販売増加と販価改定により、部門売上高は増加

パウダー・ペースト部門

- 放熱用途の電子材アルミパウダー・窒化アルミは放熱用途の需要伸長で前年同期上回り、自動車塗料向けペーストは国内は減販も海外は堅調に推移で前年同期上回り、部門売上高増

日用品部門

- コンシューマー向けでハウスクエア商品販売伸長もアルミホイル等販価改定による減販影響大きく、パッケージ用品で冷食向けアルミ容器と紙容器が堅調も、部門売上高は前年同期比下回る

目次

1. 2025年度 中間期決算
2. 2025年度 通期業績予想

2025年度 通期業績予想

通期業績予想 – 前期比

期首予想(25/5/15公表)を据え置き

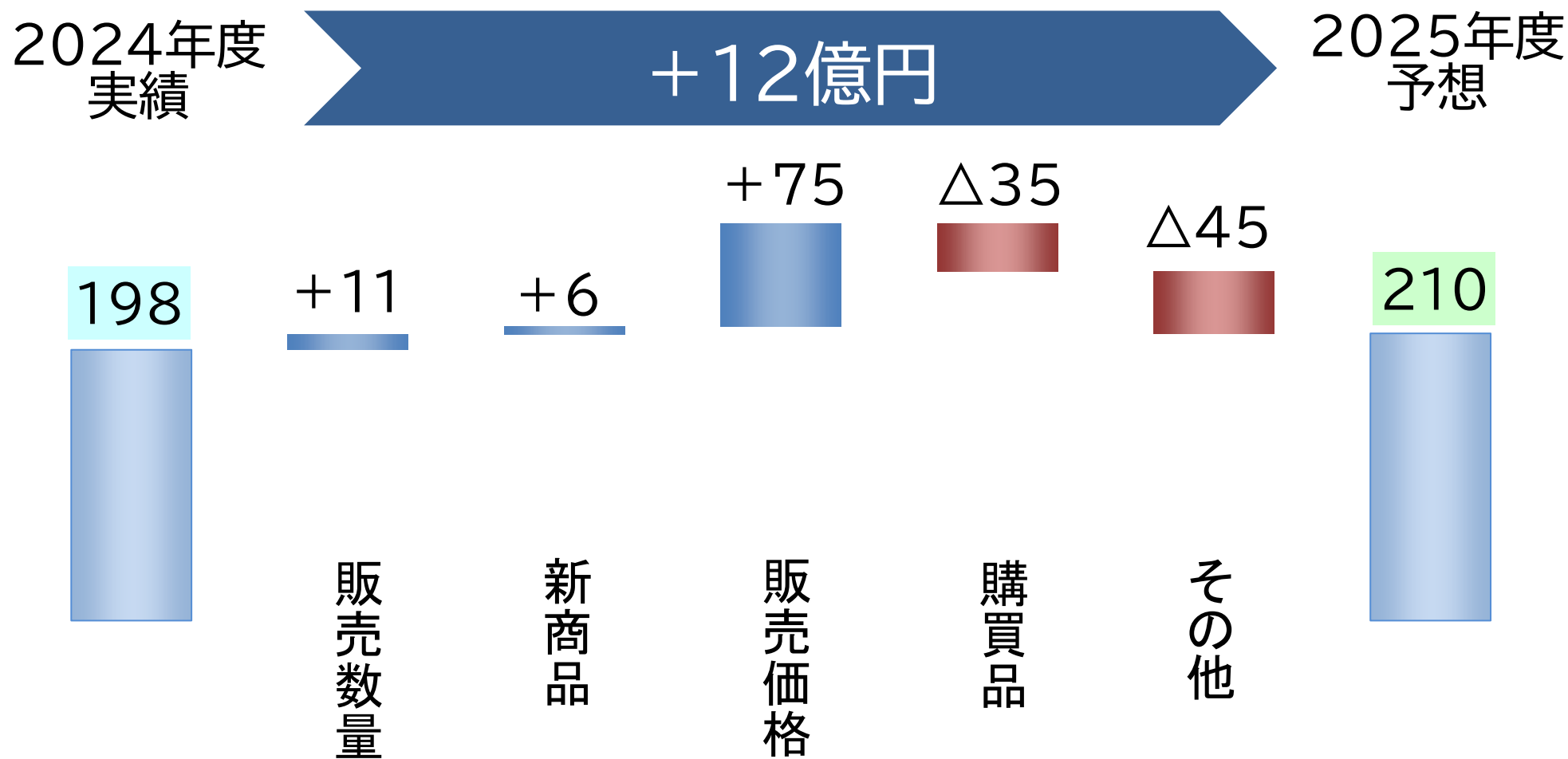
上期までの業績進捗は順調に推移、米国関税政策影響や自動車・
半導体市場への動向注視など不透明感を考慮 (億円)

	2024年度 実績	2025年度 予想	増減
売上高	5,502	5,900	+398 (+7.2%)
営業利益	217	230	+13 (+5.8%)
経常利益	198	210	+12 (+6.1%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	124	150	+26 (+21.2%)

2025年度 通期業績予想

経常利益変化要因 – 前期比

増収・増益 トラック架装はじめ販価改定効果は拡大、放熱関連好調・自動車部品改善は継続も、半導体製造装置向け板、押出の回復先送りもあり、慎重に予想



2025年度 通期業績予想

通期セグメント予想 – 前期比

加工関連、関連事業：自動車部品回復・トラック架装堅調の継続で通期でも大きく改善
箔、粉末製品：上期増販のLIB外装用箔は市場動向注視も、放熱向けパウダー好調継続

(億円)

	売上高			営業利益		
	2024年度 実績	2025年度 予想	増減	2024年度 実績	2025年度 予想	増減
アルミ・化成品、 地金	1,655	1,870	+215 (+13.0%)	115	85	△30 (△26.4%)
板、押出製品	1,036	1,110	+74 (+7.2%)	55	55	±0 (-)
加工製品、 関連事業	1,722	1,790	+68 (+3.9%)	32	60	+28 (+89.1%)
箔、粉末製品	1,089	1,130	+41 (+3.8%)	55	70	+15 (+28.2%)
管理・共通	—	—	—	△40	△40	±0
合 計	5,502	5,900	+398 (+7.2%)	217	230	+13 (+5.8%)

2025年度 連結業績予想

アルミナ・化成品、地金

化成品：放熱難燃フィラー向け好調継続と販価改定効果で前年同期比増益見込み

メタル：二次合金が米・販売環境好調継続もあり増販、アルミ市況変動影響などで減益

売上高(億円)

営業利益(億円)

化成品事業グループ

化成品部門(日軽金・化成品)

メタル事業グループ

二次合金部門(日軽エムシーアルミ)

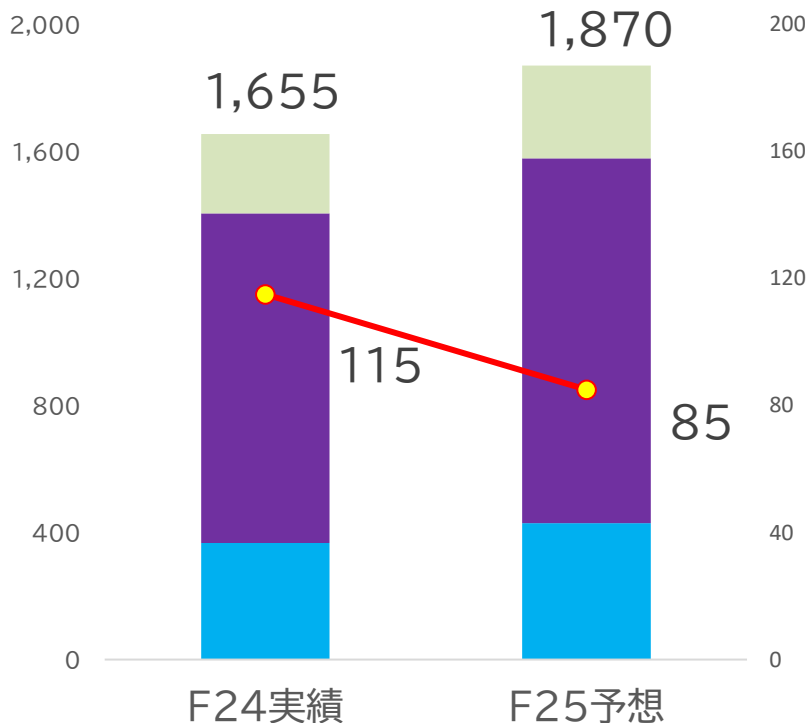
日軽金・化成品

日軽エムシーアルミ

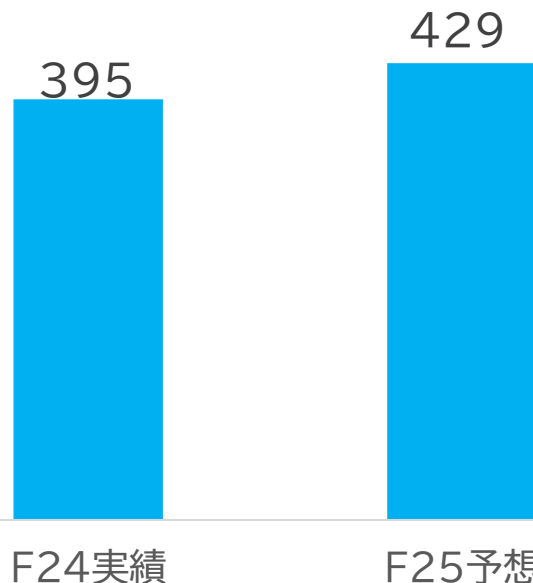
営業利益

- アルミナはセラミック・耐火研削向けが引き続き弱含みも、難燃放熱フィラーの販売好調継続、化学品は無機塩化物などで弱含み
- 販価改定効果は引き続き発現

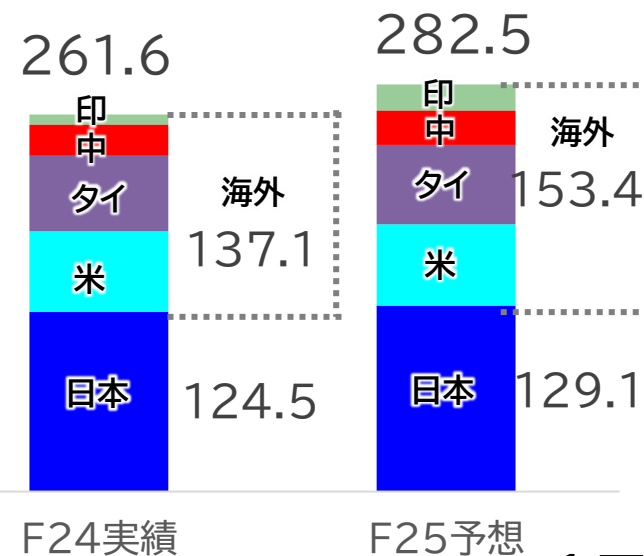
- 日本：国内自動車生産低調影響継続で弱含み
- 海外：米国の関税政策影響でのアルミ地金価格上昇影響での好調継続、中国・タイは上期並み推移、インド新工場による増販が寄与



売上高
億円



販売量
千t



2025年度 連結業績予想

板、押出製品

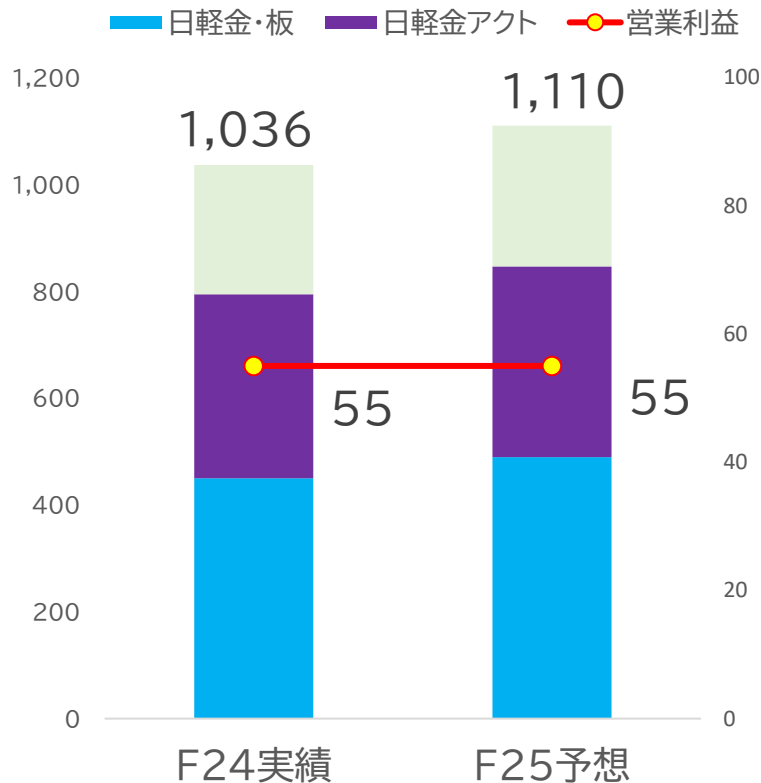
トラック架装向け押出材は堅調推移、LIBケース向け板材の好調継続も、半導体製造装置向けは26年度に入っでの回復想定に

売上高(億円)

営業利益(億円)

軽圧事業グループ
板部門(日軽金・板)

軽圧事業グループ
押出部門(日軽金アクト)



- 半導体製造装置向けの回復は26年度に入ってからとなり先送りの、リチウムイオン電池ケース向け板材の好調が牽引し、上期と比べ下期は利益改善見込む

- 半導体製造装置向けは需要回復時期先送りで販売停滞も、トラック架装向け販売は堅調に推移、アルミ地金価格変動影響軟化もあり、上期と比べ下期は利益見込み

売上高
億円

F24実績

F25予想

売上高
億円

F24実績

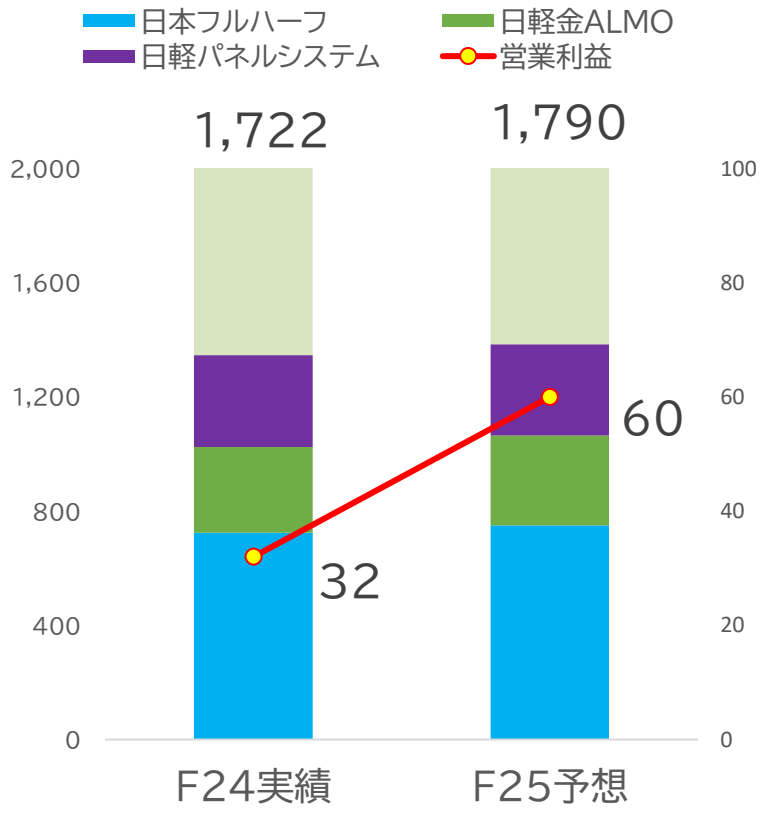
F25予想

2025年度 連結業績予想

加工製品、関連事業

輸送機器(トラック架装)は販売台数やや減も販価改定効果継続、自動車部品は国内回復・米国良化継続、エンジニアリングのパネルシステムは需要見通し慎重も、セグメント利益改善

売上高(億円) 営業利益(億円)



輸送機器事業グループ(日本フルハーフ)

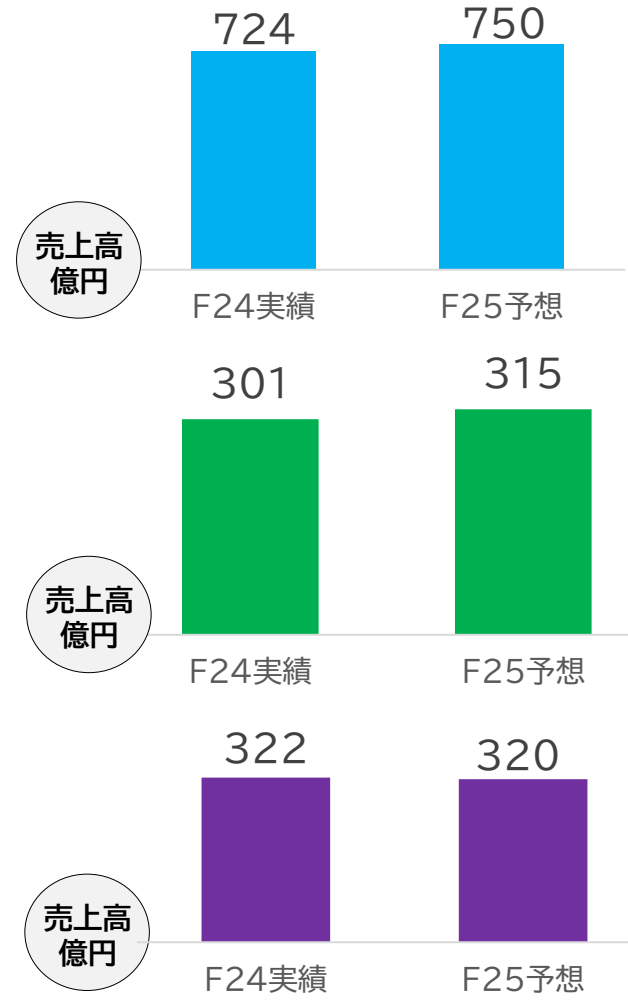
- トラック架装の需要堅調は継続
- 販価改定効果は引き続き発現、材料価格軟化もあり、利益は前年同期より大きく改善

自動車部品事業グループ(日軽金ALMO)

- 日本：自動車減産基調からの一部回復、新規案件上市寄与は継続、米国関税動向へは注視
- 海外：中国低迷も、米国は生産性良化等で損益改善

エンジニアリング事業グループ パネルシステム部門(日軽パネルシステム)

- 冷凍・冷蔵分野 建設費高騰等での計画見直し有りも、物流拠点増設・建替需要継続で堅調
- クリーンルーム分野 半導体関連向けでの設備投資慎重姿勢による停滞・計画見直し動きを注視



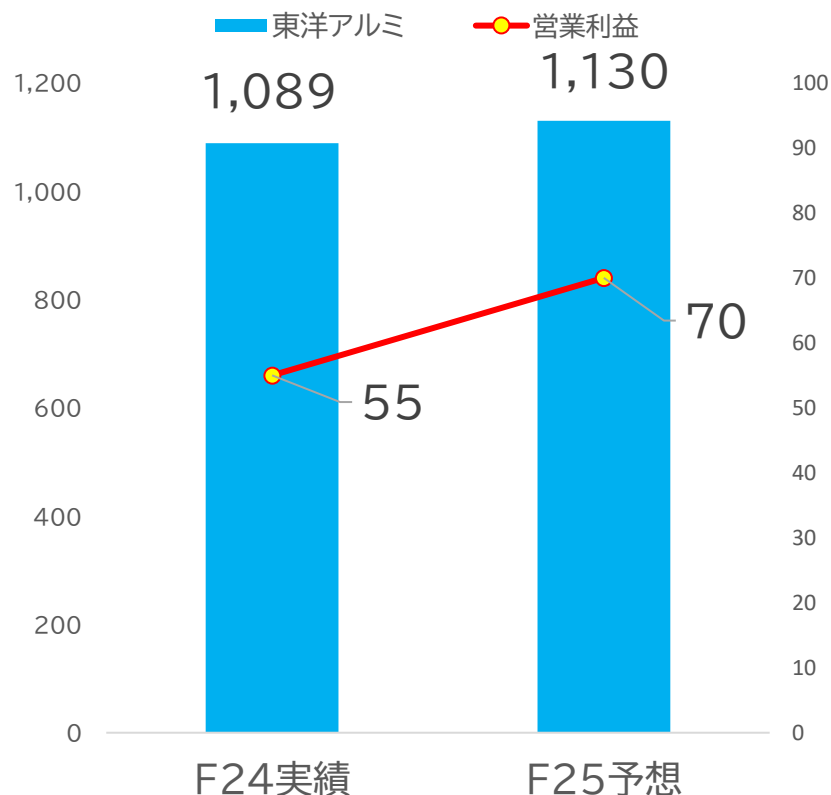
2025年度 連結業績予想

箔、粉末製品

箔はLIB外装用箔の下期以降も増販基調続くか見極めも、パウダー・ペーストは放熱用途の好調継続、販価改定効果もあり前年同期比増益を見込む

売上高(億円)

営業利益(億円)



箔事業グループ(東洋アルミニウム) 箔部門

- リチウムイオン電池外装用箔は上期は需要調整局面より回復で増販も下期以降の継続性を見極め、販売価格改定による効果発現もあり増益見込み

パウダー・ペースト部門

- 放熱用途の電子材アルミパウダー・窒化アルミは引き続き好調、自動車塗料向けは国内弱含みも海外向けはプラス基調継続。

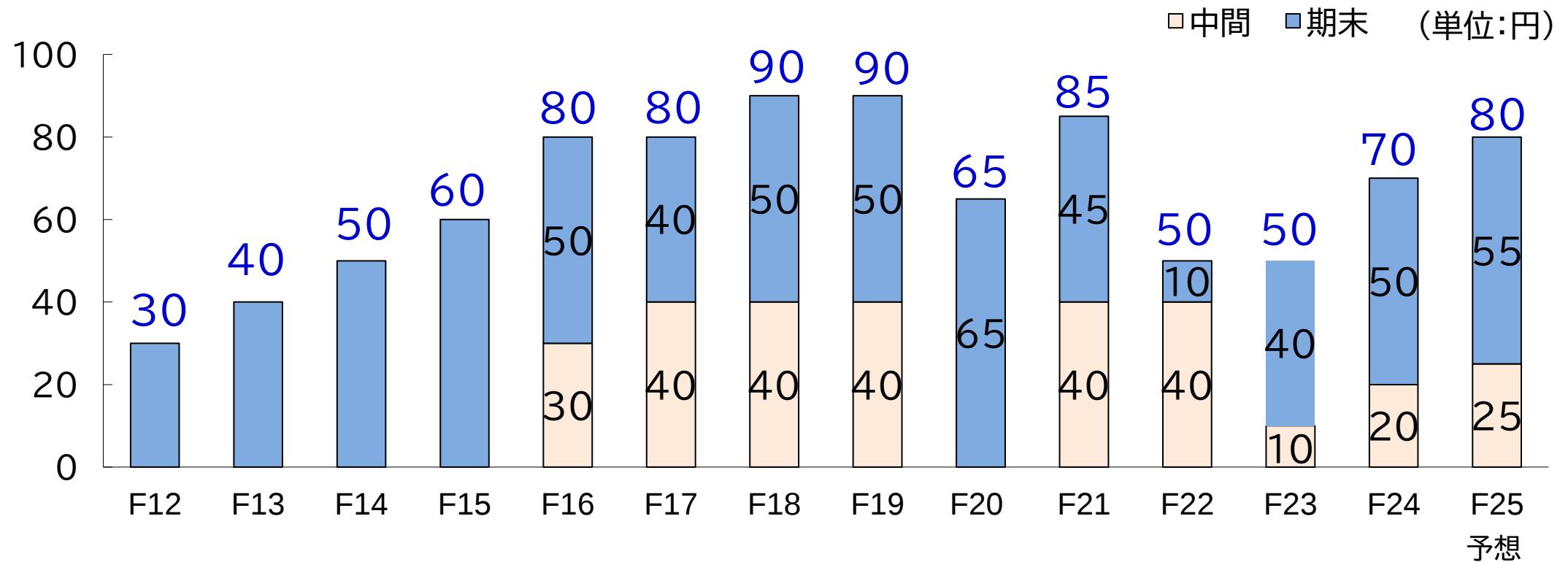
日用品部門

- コンシューマー向けは販価改定による減販影響が下期以降もあり、パッケージ用品は冷食向けアルミ容器と紙容器が堅調も、部門売上高は前年同期をやや下回ると予想

2025年度 通期業績予想 1株当たり配当金

2025/5/15公表予想を据え置き

1株当たり配当金 80円（中間25円確定、期末55円）、24年度比10円増配



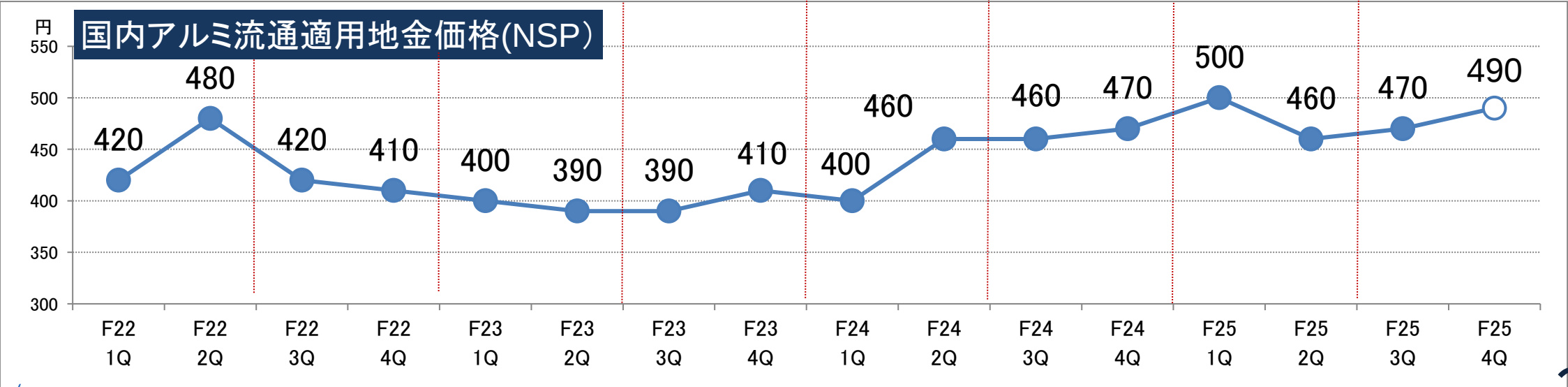
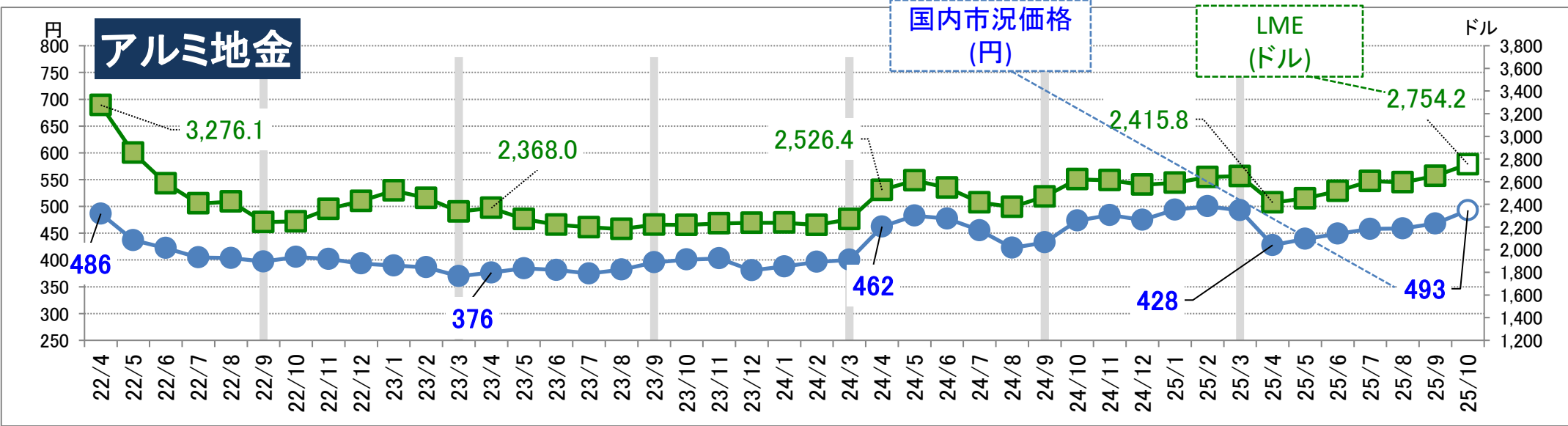
当社は2020年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施しておりますので、2019年度(2020年3月期)以前の1株当たり配当額については、当該株式併合の影響を考慮した金額としております。

補足資料

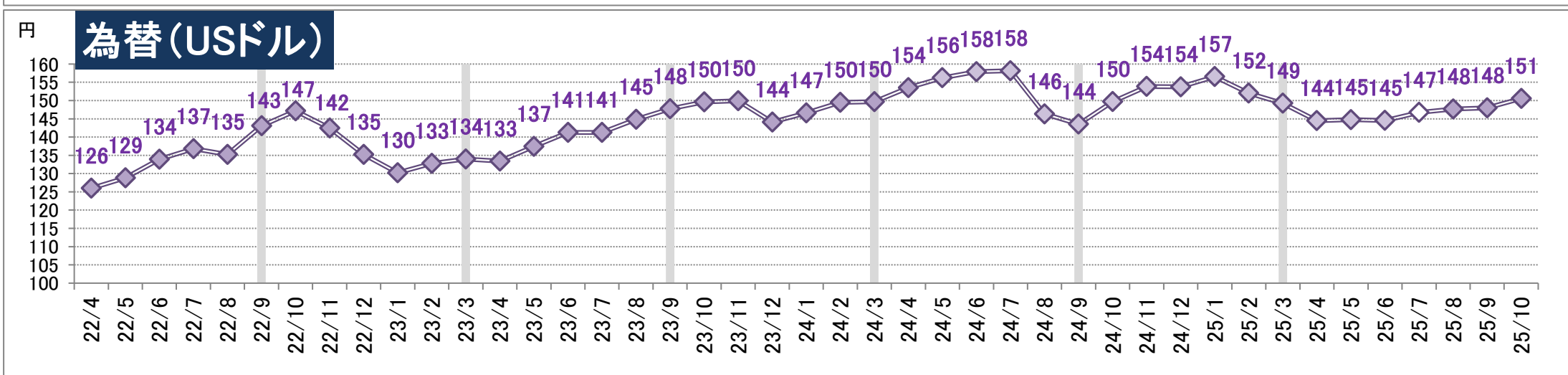
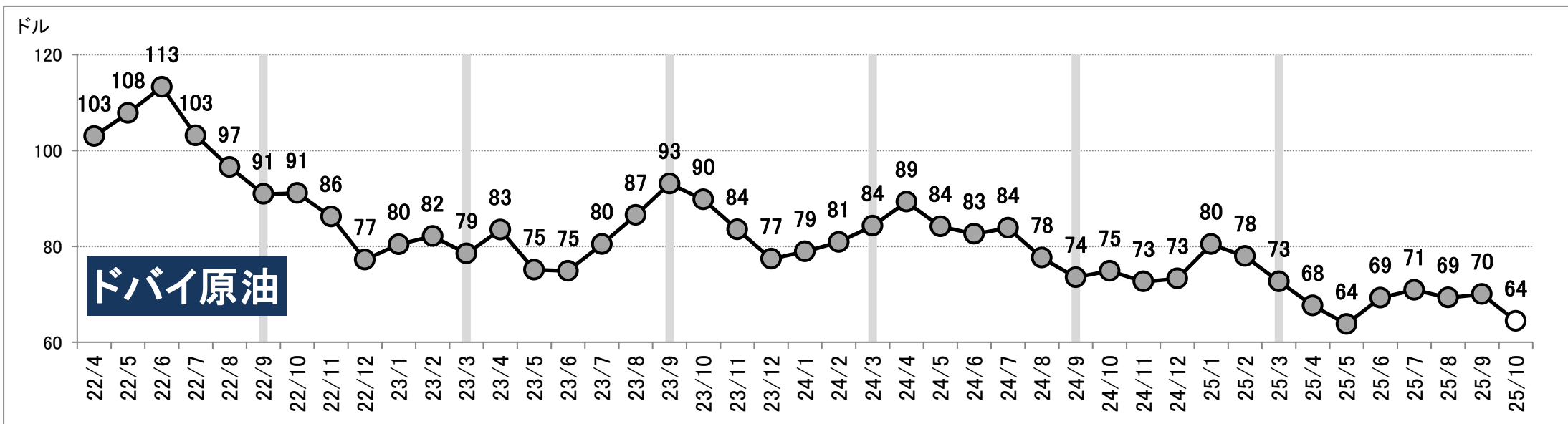
報告セグメントと事業グループを構成する主な部門

報告セグメント	事業グループ	主な部門	主要事業会社・事業部門
アルミナ・化成品、地金	<u>化成品</u>	化成品部門 炭素製品部門	日軽金・化成品 日本電極
	<u>メタル</u>	二次合金部門	日軽エムシーアルミ
板、押出製品	<u>軽圧</u>	板部門 押出部門 電子材料部門	日軽金・板 日軽金アクト 日軽金・電極箔
加工製品、関連事業	<u>輸送機器</u>	トラック架装	日本フルハーフ
	<u>自動車部品</u>		日軽金ALMO
	<u>エンジニアリング</u>	パネルシステム部門 景観エンジニアリング部門	日軽パネルシステム 日軽エンジニアリング
	<u>インフラ</u>		日軽金・蒲原、苫小牧 日軽物流
箔、粉末製品	<u>箔</u>	箔部門 パウダー・ペースト部門 日用品部門	東洋アルミニウム

アルミ地金価格推移



原油価格・為替推移



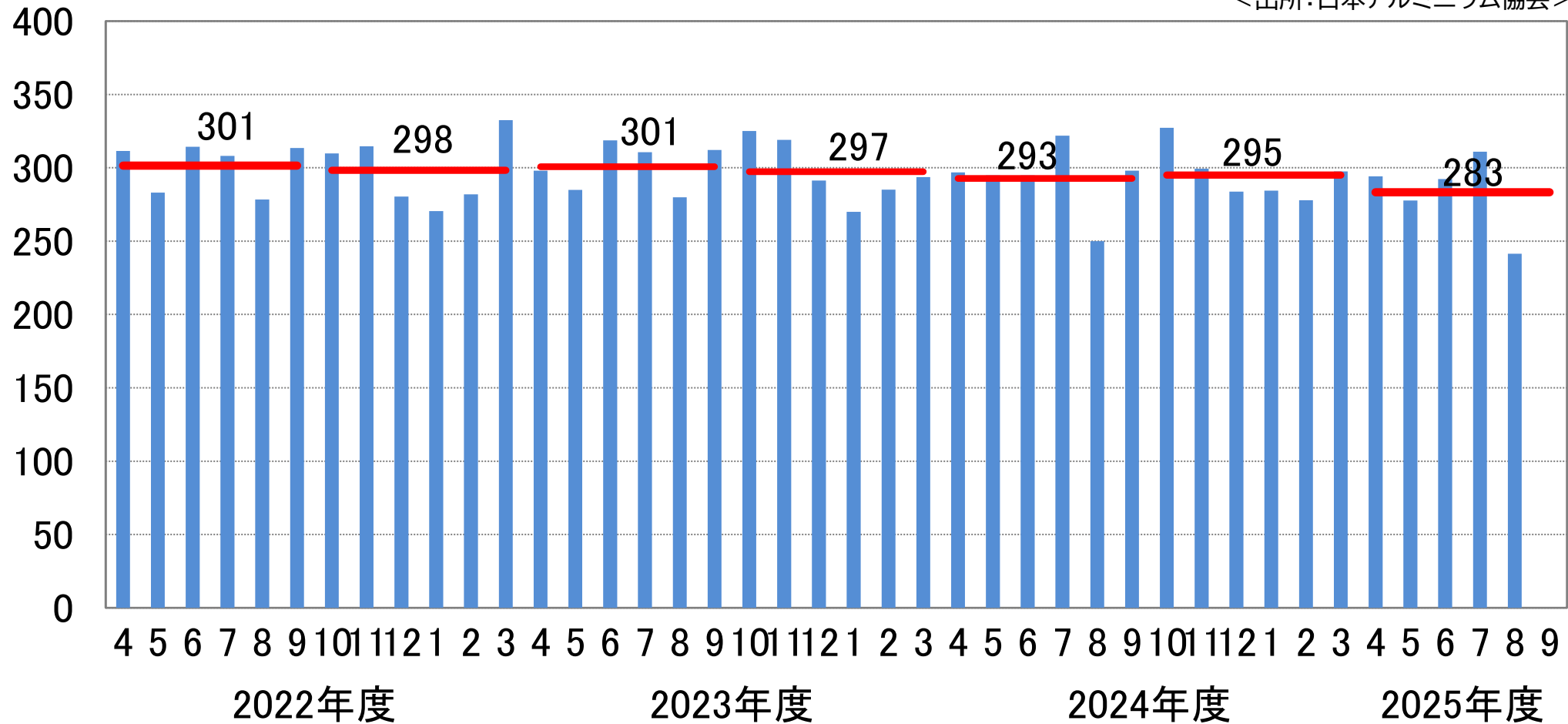
諸元と感応度

	2023年度 実績	2024年度 実績	2025年度 予想	25/4-9 実績	経常利益への 感応度
アルミ地金 (円/kg)	389	471	470	450	10円/kg上昇した場合 △4億円/年
為替 (円/米ドル)	145	153	150	146	10円円高となった場合 ±0 営業利益+7億円/年 営業外損益△7億円/年
ドバイ原油 (米ドル/BBL)	82	79	80	68	10ドル/BBL上昇した場合 △8億円/年

国内アルミ製品総需要の推移

(千トン)

<出所:日本アルミニウム協会>



補足資料
製品販売量

	(千t)		
	2024/4-9 実績	2025/4-9 実績	増減
日軽エムシーアルミ(二次合金)	128.3	132.8	+4.5 (+3.5%)
国内	60.1	60.9	+0.8 (+1.3%)
海外	68.2	71.9	+3.7 (+5.4%)
日軽金・板(板製品)	29.4	32.1	+2.7 (+9.2%)
日軽金アクト(押出製品)	14.0	14.2	+0.2 (+1.4%)

補足資料

製品販売量

			(千t)
	2024年度 実績	2025年度 予想	増減
日軽エムシーアルミ(二次合金)	261.6	282.5	+20.9 (+8.0%)
国内	124.5	129.1	+4.6 (+3.7%)
海外	137.1	153.4	+16.3 (+11.9%)
日軽金・板(板製品)	63.1	66.2	+3.1 (+4.9%)
日軽金アクト(押出製品)	28.7	28.3	△0.4 (△1.4%)

補足資料

主要会社の業績

(億円)

	2024/4-9 実績			2025/4-9 実績		
	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益
日本軽金属(単体)	712	37	73	801	31	76
東洋アルミニウム(連結)	532	32	29	557	37	36
日軽エムシーアルミ(連結)	503	8	10	541	15	16
日本フルハーフ(連結)	358	△1	△1	370	11	10
日軽金アクト(連結)	166	8	7	179	1	1
日軽パネルシステム(連結)	138	11	11	153	13	14
日軽金ALMO (連結)	140	△14	△16	150	△2	△3

補足資料

主要会社の業績

(億円)

	2024年度 実績			2025年度 予想		
	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益
日本軽金属(単体)	1,508	68	100	1,623	31	75
東洋アルミニウム(連結)	1,092	55	50	1,113	68	62
日軽エムシーアルミ(連結)	1,038	15	19	1,150	29	30
日本フルハーフ(連結)	724	5	4	750	16	16
日軽金アクト(連結)	344	19	17	357	10	9
日軽パネルシステム(連結)	322	41	42	320	29	30
日軽金ALMO (連結)	301	△25	△29	315	△6	△13

本資料についての注意事項

1. 本資料は2026年3月期の業績及び今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の購入や売却を勧誘するものではありません。
2. 本資料のなかで記述しております将来の動向や業績等に関する見通しは、歴史的事実でないためリスクと不確定な要素を含んでおり、将来の業績を保証するものではありません。実際の業績は、予測しえない経済状況の変化などさまざまな要因により見通しとは大きく異なる結果となる可能性があります。実際の業績に影響を与える重要な要因には、当社グループを取り巻く経済情勢、社会的動向、当社グループの提供する製品やサービス等に対する需要動向による相対的競争力の変化などがあります。なお、業績に影響を与える重要な要因は、これらに限定されるものではありません。
3. 本資料の中で記述しております事項は、資料作成時点における当社の見解であり、今後予告なく変更される場合があります。
4. 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。